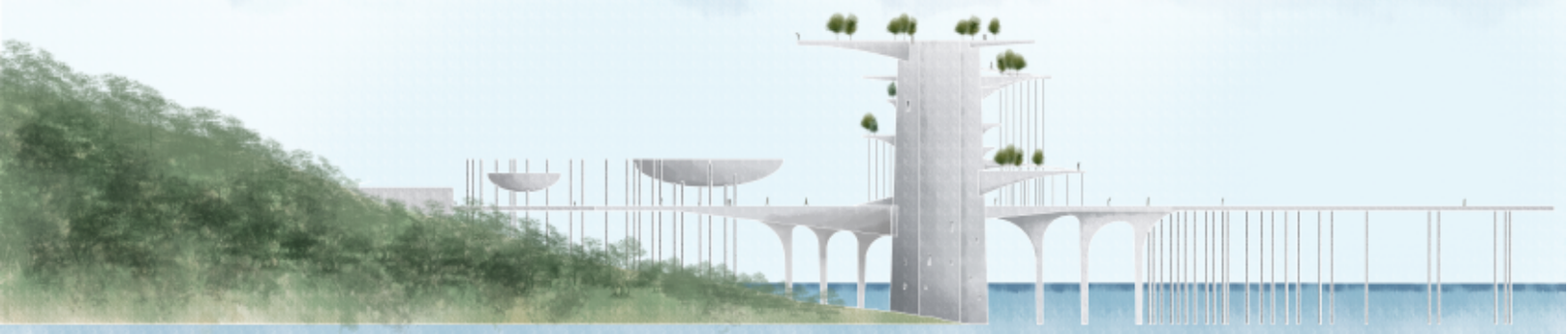
記憶の伝承

過去から現在そして未来へ



背景

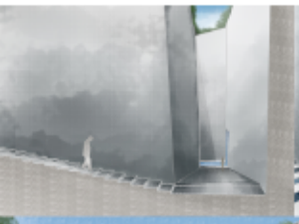
福山市には“唐船千家の市”という中世の時代に交通の要所として栄え、そして凄まじい自然災害によって消えてしまった町が存在する。“唐船千家の市”は、江戸時代に書かれた地誌『備陽六郡志』や『西備名区』に記載されているが、現在では、走島の唐船地区に伝承を伝える看板が残るのみで人々に忘れられようとしている。

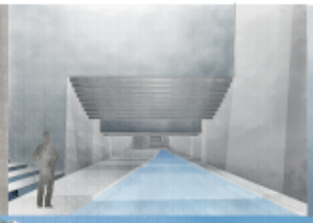
問題提起

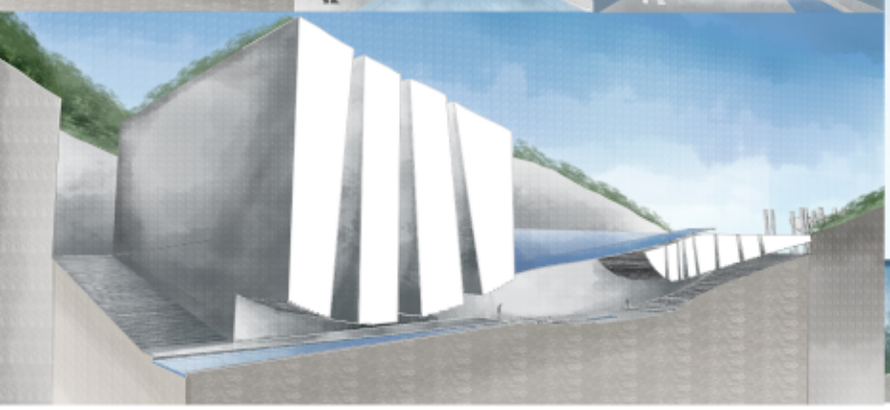
現代社会を生きる人間は、せわしない日常を送り続け、今を過ごすことに必死になりすぎ自分自身が立っている土地の記憶を忘れているように感じる。様々な土地の記憶の積み重ねの上に自分自身が今生きていることを忘れてしまうことは、とても危険なことだ。

計画目的

様々な土地の記憶の積み重ねの上に現在の自分自身が存在していることを再確認するためには、自らについてより知る必要がある。自分自身を振り返る空間を作り訪れた人が自らを見つめなおすことを目的とする。







アプローチ

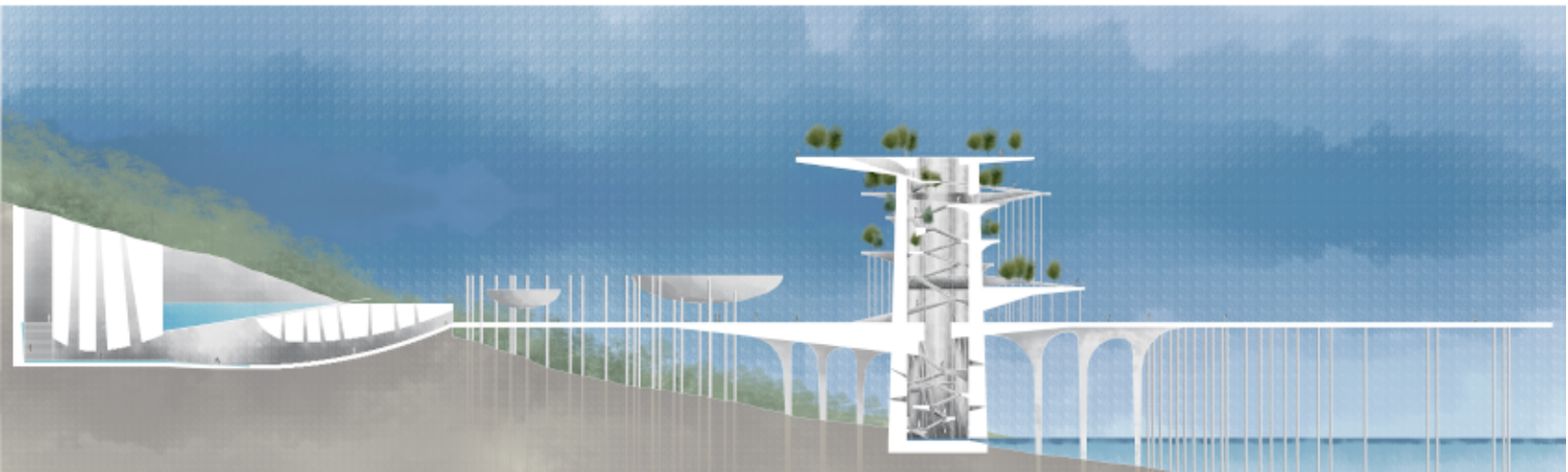
既存の道路から入り口までを無機質な空間で構成することで空間を静止させ、日常世界から遮断する。入り口から水を流すことで止まっていた時が流れ出し、そこから発する流れによって来訪者を内部空間へと誘導する。

誕生への道

誕生への道は、人間の“一生”が始まる前の状態を表す。生物の始まりが海からであったことから天井を水盤にし、水中を表現する。天井の水盤は、入り口付近を深くし、そこから徐々に水位を浅くすることにより、取り入れられる自然光の量を増やす。来訪者は光に導かれ次の空間へと足を進める。

誕生の空間

誕生の空間は、「誕生」、「始まり」の二つを表現する。

・「誕生」…開けた空間と雄大な景色によってこの世に誕生した喜びを表現する。

・「始まり」…柱をランダムに配置した空間において来訪者が、柱から柱をつなぐようにしてそれぞれ自由に道を作り進むことで、これから始まる“一生”に可能性があふれているということを表現する。